

平成 29 年度仁淀川清流保全推進協議会（第 1 回）議事録

日時：平成 29 年 6 月 26 日（金）14:00～15:50

場所：いの町 かんぼの宿伊野 1 階 中会議室

出席者：[委員]石川会長、井上副会長、大下委員、新宅委員、近澤委員、中澤委員、
岡村委員、吉村委員、田岡委員、山崎委員、森下委員（11 名）

[随行者]四国森林管理局 川田流域管理指導官（1 名）

[事務局]環境共生課 三好課長補佐、環境共生課 遠近チーフ、
環境共生課 高橋主事（3 名）

◆株式会社サニーマート 寄付贈呈式

◆有限会社高知アイス 寄付贈呈式

◆全体会

1 高知県林業振興・環境部 環境共生課長補佐あいさつ

- ・委員の紹介
- ・会の成立を報告
- ・「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、審議内容をホームページで公開することの了承を得る。
- ・石川会長が議事進行を務める。

2 議事

(1) 平成 28 年度事業報告及び決算について

- ・事務局から【資料 1】を用いて説明
- ・中澤監事から監査報告があり、異議がなく承認された。

(大下委員)

アンケートの中で参加者の性別、年齢層が偏っていると思われる。それらを解消するため、今後の周知方法に工夫が必要となるのではないか。

(石川会長)

今後の広報のやり方は課題となってくる。去年はチラシをたくさん印刷し、流域に配った。地元の方も多く来てくれたが、やはり若い方は少ない。学校等へ配布したほうがいいのかも。その点については事務局とともに協議会で検討していきたい

い。皆さまからも配布先でいいところがあれば、ご意見いただきたい。

また、ごみ分析勉強会を実施したことを、一斉清掃の際にポスター等で流域の方に周知している。今後ごみの分析を独自でも進めていきながら、流域の方に還元できたらよい。どんなごみがたくさんあるのかといったことを気にかけてもらえれば、少しでも改善につながっていくのではないか。そこから流域の参加者の増加につながっていけばよいと思う。

一斉清掃にしてもシンポジウムにしても、何年か取り組んできたが、中々広がりがないように感じる。もっと広げるにはどうしたらいいか考えているが、ご意見をいただきたい。

(大下委員)

ラブリバーパートナーシップでは、メンバーが集まって、現状等について話し合っていて、何年か前から一斉清掃の日程を各自で追加して実施している。大量にあるごみを回収するには大きな力が必要で、3、4人でやるのは結構しんどい。行政の方に集めたごみを回収してもらおうなど、そういった根回しや段取りも必要になってくる。そんな団体が各地にいくつかできないといけないのではないか。

(石川会長)

ありがとうございました。いろんな地域でそういった集まりができ、1つになって大きな力になったらいいというご意見だと思う。また、シンポジウムにおいてワークショップがあるが、昨年度から新しく山のことをテーマに取り入れて話し合った。すぐに具体的にどうこう動けるような内容ではないが、やはり山のことに関心を持ち続けてもらうことが非常に大事だと思われる。川の源は山なので、山が病んでくると川も病んでくる。仁淀川はそれほどでもないが、物部川は大変なことになっている。仁淀川もいつそうなるか分からないため、山のことにしても流域のみなさんに関心を持ち続けてもらいたい。他に感想等意見はないか。

(井上副会長)

ごみ勉強会に参加したが、私は上流に住んでおり下流のことはあまり分からなかった。改めて見学に行ってみると、仁淀川にはかなりゴミがあることを、国交省に紹介していただいたが、そういったものを上流の人にも流域の人にも知ってもらう機会をもっと持てたらよい。ごみ拾い当日はすごく暑かったのだが、浜は風が吹いて気持ちよかった。もっとたくさん参加してもらえたらよいと感じた。

(石川会長)

ありがとうございました。せっかくごみの勉強会をやったので、結果等を見ながら

みんなで共有していきたい。仁淀川の流域は広いので、上流と下流の交流も必要ではないか。上流からごみが流れて、河口に集まる。5月の池川町での一斉清掃に参加したが、釣り人や観光客が投げた弁当の空がたくさん出てきた。せっかくきれいな仁淀川で遊ぶのであれば、ゴミはきちんと持ち帰るというマナーを流域で徹底できたらと思う。その他、ご意見ないか。

(山崎委員)

佐川環境問題研究会で蛍を見に行ってきたが、素晴らしいものだった。そういったものが根っこにないとごみをいくら拾ってもだめだと思われる。素晴らしいというものがないといけない。1つ工夫はできないものか。

(石川委員)

ありがとうございました。川の素晴らしさを感じてもらうことが、川をきれいにしようという気持ちにつながるのではないかと。協議会で環境学習を実施しているが、その広がりがたくさんできたらいいと思う。

(井上副会長)

仁淀川漁協において、宮の前公園で魚の放流をしたり、つかみどりをしたり、バスで流域を回ったりしているが、かなり評判がいいと思われる。集まり具合はどんな感じか。

(吉村委員)

仁淀川流域交流会議の協力を得て、今年はバス5台で、例年は6台だが、親子合わせて100名程度の参加がある。今までの評判も良く、リピーターもおり、多くの方に参加いただいている。放流とつかみどりが子どもたちにとっては楽しいようで、ダムの見学も初めての方に喜んでもらっている。川を大事にするということ子どもたちに少しでも知ってもらいたいのが基本だが、少しながらも理解してもらえていると思う。また、県の環境共生課から、森の働きということについて15分ほど勉強会を行っており、子どもたちも真剣かつ素直に聞いてくれていた。

(井上副会長)

どの地域からの参加者が多いのか。

(吉村委員)

高知市が一番多い。流域全体に周知しているが、上流域の参加は少ない。日ごろから見ているという感覚があるからだと思われる。

(石川会長)

素晴らしい取組であり、大変好評なので是非とも継続してもらいたい。その他にはないか。

<意見なし>

(石川会長)

それではただいまの議事1について承認いただけるか。

<異議なし>

(2) 平成29年度事業計画及び収支予算について

・事務局から【資料2】及び【資料3】を用いて説明

(近澤委員)

川の安全教室はいいと思うが、実施時期が夏が終わった後である。死者や怪我人が出る前のほうがよかったのではないか。

(事務局)

夏休み前に開催できればよかったのだが、予算案には保険料と会場使用料くらいしかあげておらず、講習料については、今回、RACのご厚意により開催する形となった。来年度以降も継続していきたいが、初めての取組ということで下見等の準備で時間がかかってしまい、9月の開催となった。

(近澤委員)

工芸村の前でカヌー遊びを商業的にやっているため、来年度以降はそこでライフジャケットの講習もあり得ると思う。

(事務局)

ライフジャケットの重要性を知っていただけるきっかけになればと考えており、今回の実施計画に至った。来年はもっと早い時期の開催を考えており、予算面や、全体会の承認のスケジュールを踏まえて計画を立てていく。

(石川会長)

ライフジャケットの着用は非常に重要なことである。今年の開催は9月となってし

もうが、カヌー関係者の方にも是非参加していただきたい。そこからカヌーインストラクターが参加者に普及していけるような話になればよい。

(近澤委員)

実際にカヌーを置いているのは工芸村のところだが、開催場所は波川でいいのか。

(事務局)

工芸村も下見に行ったが、そこは中級者向けで初心者には難しいとの理由から今年は波川を会場とした。

(新宅委員)

いい取組なのでぜひ続けてほしいが、指導者を育てるという内容のため、この講習により川に触れ合う機会がどれくらい増えたのかというのを調査してもらいたい。また、シンポジウムのアンケートでチラシの数を増やすべきとの話があったが、予算はそれほど増えていないと思われる。

(事務局)

枚数については、予備費を活用しながら学校等の配布先の追加も含めて検討していく。

(大下委員)

一斉清掃におけるパックテストの件だが、19 ページにおいて方法が1 から3 まで記載されている。これは昨年と同じということによろしいか。

(事務局)

同じである。なお、各部会では昨年と同じ方法でよいとの承認を得ている。

(大下委員)

河口域において今年は土佐市を予定しているが、昨年の結果発表を行った高岡中学校とは別の学校が来るのか。

(事務局)

学校は同じところへ依頼を予定している。

(石川会長)

科学部の生徒さんに発表してもらった。参加してくれる生徒さんは1 年生から3 年

生で変わらないが、多少の人の入れ替わりがある。

(大下委員)

昨年は清掃活動の前に発表があったが、当日は雨が降っており、びしょびしょになりながら一生懸命発表してくれたことを覚えている。天候にもよるだろうが、段取りの打合せや協議があったのか気になる。

(事務局)

部会でも意見が出ており、今年はそういった事態にならないようにテントの設置数を増やすなど、市町村と協議をしている。

(吉村委員)

川の安全教室が9月10日ということだが、いつ頃から募集をかけていくのか。

(事務局)

今回の全体会で承認いただければ、資料等の作成に取りかかり、7月中旬には各部会員やカヌー事業者といった流域で体験活動を実施されている団体を通じての声掛け、教育委員会を通じて学校の先生に参加してもらえるように資料配布を行っていきたい。

(井上副会長)

川の安全教室において、RACの見積が高額だったが、消防や日赤での実施も可能なので、継続の必要性からもみて、予算がかからないような方法でできるようにしてもらいたい。

(大下委員)

22 ページのシンポジウムのワークショップにおいて、今年のごみの問題について去年やっていなかったものをもう一度やろうという形だと思うが、ゴールはどこを想定しているか。前はワークショップの結果からごみ勉強会につながったと思うが、今回はどういったことをテーマとして話し合うのか。現状はごみが多いという話をすればいいのか。

(事務局)

森林と同様に、まず知っていただくというのがごみの問題にも必要となってくる。今回は仁淀川町での実施となっているため、上流域の方の参加が多いと思われる。まずは知ってもらうことをポイントにしたい。知ってどういう行動ができるかというのは、こちらがゴールを決めないほうがよいと考えている。できれば、自分たちの日々

の生活や、ごみを出さないようにするにはどうしたらいいか、自分の出すごみにどう責任を持っていくのか、そういったことを考えられるようにつながればよい。

(井上副会長)

先日、池川で開催された一斉清掃のように、上流域は川にゴミがあるというよりは道路脇に弁当の空箱が捨てられていて、それが水で流されていくようなイメージがある。捨てているのは一部の人だけであろうが、毎日そこで弁当を食べて捨てていくから溜まっていく。それに対する啓発活動や認識を変えるためのことを考えていかなければならない。

(吉村委員)

副会長の言うようにゴミの位置はあまり変わらないため、そこに捨てていく人はだいたい決まっていると思う。その写真を撮っておいて、良心に働きかけてはどうか。

(近澤委員)

山道でゴミが捨てられていくところにお宮を作ったりしている。街中の繁華街では、立小便禁止の看板を立てたりしているが、ここなら大丈夫だろうというスポットがある。

(石川会長)

地図におとしてみても、こんな場所にこんなゴミがあったということを一斉清掃やシンポジウムのときに写真等で示せたら心に思い当たる人が見るかもしれない。

(山崎委員)

ゴミの捨てやすいところ、捨てにくいところがある。谷の奥に地元の人が捨てており、みんなで清掃したことがある。

(井上副会長)

きれいにしていれば捨てられることはない。溜まっているところには構わないと思って捨てたりしている。

(近澤委員)

工業会では漁協と一緒に放流の協力をしており、植林もやっている。私たちは水を使う側だが、水の量は減っている。高知に降る雨の量は変わっていないはずなので、やはり森林整備がある程度必要だが、上流域で人が住まなくなると森林もへたってしまうことから水の保全ができない。また、個人的にも会社でも山を持っており、

祖父の代から 50 年ほど整備しているが 1 円にもならない。木が価値を持ってくれないので、整備をして山を持つことが中々難しい。最近、間伐材を薪にしてもらうとかが大事かもしれない。

(山崎委員)

昔は山自体が資産であり、銀行等における担保価値となっていた。

また、四万十川には、最後の清流というキャッチコピーがあるが、仁淀川の奇跡の清流はどうか。いの町観光協会の事務所のポスターには、奇跡の清流の下に仁淀ブルーとも書いてあり、キャッチコピーが 2 つある形となっている。仁淀ブルーだけに絞ってはどうか。

(中澤委員)

仁淀ブルーは西佐川の駅舎へ移っており、事務局もできている。いの町観光協会の奇跡の清流については、NHK での放送をきっかけに使われるようになった。このことについてはご意見として持ち帰る。

(石川会長)

だいぶ時間も迫ってきたが、他にご意見等ないか。

<意見なし>

(石川会長)

それでは議事 2 については了承いただけるということでよろしいか。

<異議なし>

(3) その他

(石川会長)

ありがとうございます。これで議事内容については終了となるが、議事 (3) その他として皆さまからの情報提供等をお願いしたい。

(大下委員)

ワークショップにおいて、ごみの問題について取り組んでできているが、年 1 回で少しずつ進んでいくのが現状かと思う。物部川ではプロジェクトチームのような集まりがあり、そこで話し合いを進めている。仁淀川もスピード感を持ってやっていくこと

が必要であり、特にゴミの問題については1年に1回では大変遅いように感じる。観光客が多く来ている現状も考えると、スピード感を持ってやっていく仕組みが必要ではないか。

(事務局)

当課は物部川の清流保全推進協議会の事務局もしている。物部では事業の承認等を諮る総会、仁淀川における全体会の下に、地域ではなくテーマごとの部会があり、その下にワーキンググループがある。物部では、特に濁水が大きな課題となっており、その他についても、関係者に集まってもらい、話し合う機会を設けている。大下委員の言うようにスピード感を持って取り組んでいく必要があるため、部会の下に、どう分けて考えていくかも含めて、テーマごとのワーキンググループを設けて取り組んでいきたいと考えている。部会員にも話を聞いたうえで、要綱等の改正といった問題も含め、次の全体会に諮る形ではどうか。

(石川会長)

この全体会でワーキンググループを作っているのではないかとこの承認をいただけたら、事務局で進めてもらってはどうか。

(大下委員)

毎年決まった時期に掃除をしており、掃除した区間はきれいになっていると思う。河口では毎年同じように大量にゴミがあり、重機も入れて掃除しているが、取りきれずに諦めて帰るといのがずっと続いている。先ほど、きれいになったらゴミがなくなるという話が出ていたが、河口においてそれは不可能である。そういったことからすると、年に1回だけ話をするのではなくて、上流から河口までが1つにつながった話の場があると、少し前進するのかなという期待を込めて提案させてもらった。

(石川会長)

正式な承認はまた後日になるが、事務局で下話をしてもらおうということでご承認いただけたらと思うが、よろしいか。

<異議なし>

(石川会長)

ありがとうございます。その他について、森下委員からもご意見よろしいか。

(森下委員)

山の整備の話も出ていたので、1つ環境の面から発言させていただきたい。平成15年に、高知県は全国に先駆けて、森林環境税を県民の皆さまに500円ずつ負担いただき取り組んでいるが、今年度は3期目の最後の年である。昨年は、各地域でご意見を伺っており、来年度以降どうするかということはまだ決まっていないが、現在検討を進めているところである。これまではソフト面において、森林環境の学習に県民に参加してもらい、山のことを知っていただくということをやってきた。また、実際に荒廃した、又は、荒廃する恐れのある森での間伐や整備を行ってきた。県民の世論調査の中でも、森林環境税で引き続き山の整備をしていくことにご理解をいただいている。そういったなかで、山と川、また海まで含めてということになるが、環境のことについて県民の皆さまから支援をいただき取り組んでいく。また、山の整備はどういったものかというのも、ご意見をいただき今後の検討に活かしていきたい。一方で、先ほど近澤委員からご意見があったが、山の整備については森林環境の側面からやっている部分があるが、やはり生産活動が活発にならないと山の公益的な機能を十分に発揮できるような整備というのがなかなか難しい状況である。産業振興計画において、県は森林の蓄積量が多いため、これを資源と捉え余すことなく活用できる取組を進めている。木材の需要自体を増やさなければ、生産効率を上げるだけでは活用につながらない。そういった需要を増やしていく中の1つには、住宅だけでなく、もっと大きな中高層の建物、特に日本において木造のものがないため、そこで使ってもらえるようなCLT等の建物を広めていく取組を行っている。自然の木、山、川、海に親しんでもらうなかで、自然の素材に小さい時から慣れ親しんで大人になって家を建てるときに木を使ってもらえるような、長いスパンでの取組もしていかなければならない。その取組を産業振興の面と環境の面からしている。これからさらに森林環境が新たな局面を迎えていることから検討をしていきたい。この会もつながりがあることを改めて感じたので今度ともよろしくお願ひ申し上げたい。

(岡村委員)

川の水が減っているという話に関連してお話をさせていただきたい。森林は樹木の集まりであり、生き物なので水を使う。戦後1,000万ヘクタールの人工林を造成し、だいぶ成長してきたが、それだけ森林自身も水を使っている。仁淀川の森林に直接結びつくかどうかはここで申し上げられないが、間伐を行えばその分水が出てくることが科学的にも実証されている。関係があるかもしれないと思い、紹介させていただいた。森林管理局としても継続的・計画的に国有林の整備・保全を続けていき、それにより仁淀川の清流の保全の寄与するために協力したいと考えている。引き続きよろしくお願ひしたい。

(山崎委員)

間伐すれば水が出るというのは、木が吸い上げる水が流れるということか。

(岡村委員)

間伐を行って木がなくなればその分水を使わないため、それが流れてくる。

(近澤委員)

特に針葉樹がかなり水を必要とする。戦後はほとんど杉やヒノキといった針葉樹を植えていた。

(岡村委員)

針葉樹林と広葉樹林ではそれほど差はないと言われている。

(近澤委員)

保水力はどうか。

(岡村委員)

森林の保水力は、森林状態や地質等によって異なり、針葉樹と広葉樹の樹種の違いによる差はそれほどないと言われている。

(近澤委員)

戦後で多く植えたものが、大きくなるにしたがって水を多く消費しているのは事実と思われる。

(岡村委員)

そのとおりである。

(近澤委員)

毎年、山の中に入っていくが、ある程度整備して入りやすくなると、手入れもしてくれている。林道が整備されると木の手入れもしてくれるし、しっかり切ってくれている。今はほったらかしになっている。

(山崎委員)

林道がないと手入れができない。県内の森林割合は 84 パーセントだが、使える木は何パーセントあるのか気になる場所である。地図で見ると、林道は面ではなくただの線となっており、ほとんど搬出ができていない。奈良県ではヘリを使っているそうである。少しずつやっていくしかない。

(石川会長)

ありがとうございます。間伐が非常に重要だということが分かったが、また仁淀川シンポジウム等で知ってもらえるよう、取り組んでいきたい。県や国の方に、その際には説明いただけたらありがたい。田岡委員に漁協としての取組等をご紹介いただきたい。

(田岡委員)

3月に漁協に着任したばかりで、まだしっかり把握できていない。

実は昔、林業に若干携わっていた。林業が衰退したとき、特に環境面でもだめになったのが、農林省が農水省に変わったことがまず1点。それから、経済林が環境林になった。この2つである。

22歳のときから40年ほど林業に関わってきたが、時期によってだんだんと衰退していった。森下委員からも意見のあった、環境税といった林業振興の取組は良かった。しかし、環境林になったことで認可が入らなくなったのが大きい。また、高知工科大学の工学部建築学科に木材分野がない。RCや鉄骨、鉄筋コンクリートの研究機関はあるが木材はない。このあたりが川も環境もだめになっている要因だと私は認識しているため、今後も勉強したいと思う。

(石川会長)

山のことについて勉強になったが、この続きはシンポジウムで皆さまにご議論等お願いしたい。定刻を過ぎたので、これで本日の議事は全て終了とする。

・事務局から次回協議会の日程・内容の連絡

閉会